

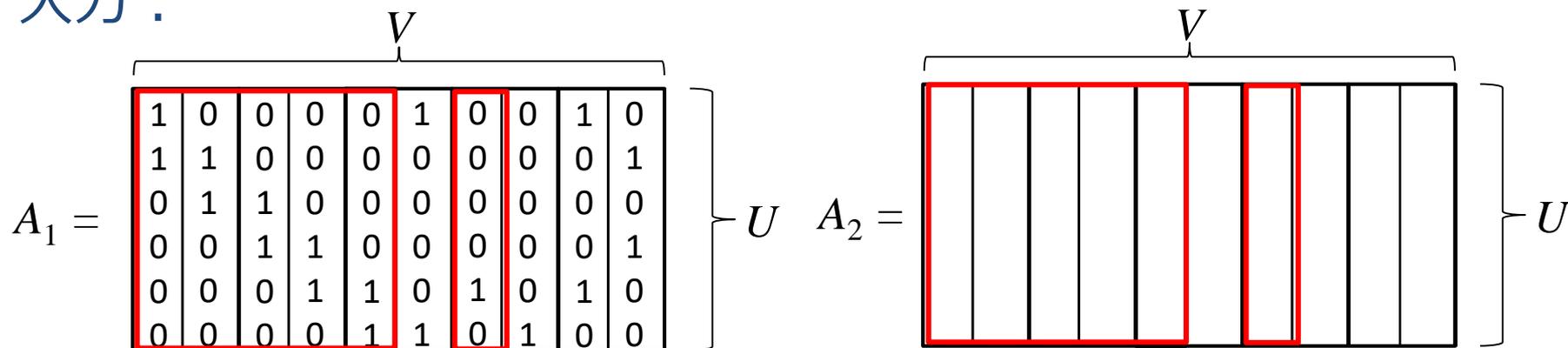
組合せ最適化問題に対する多面体的手法とその発展 2コマ目

# (線形) マトロイド交叉

Edmonds (1968, 1970)

# 線形マトロイド交叉

入力：



共通独立集合：列ベクトルの集合がどちらでも一次独立  
共通基  $B$ ：  $A_1[B, U]$  も  $A_2[B, U]$  も正則

問題：最大の共通独立集合は？

最小重みの共通基  $B$  は？

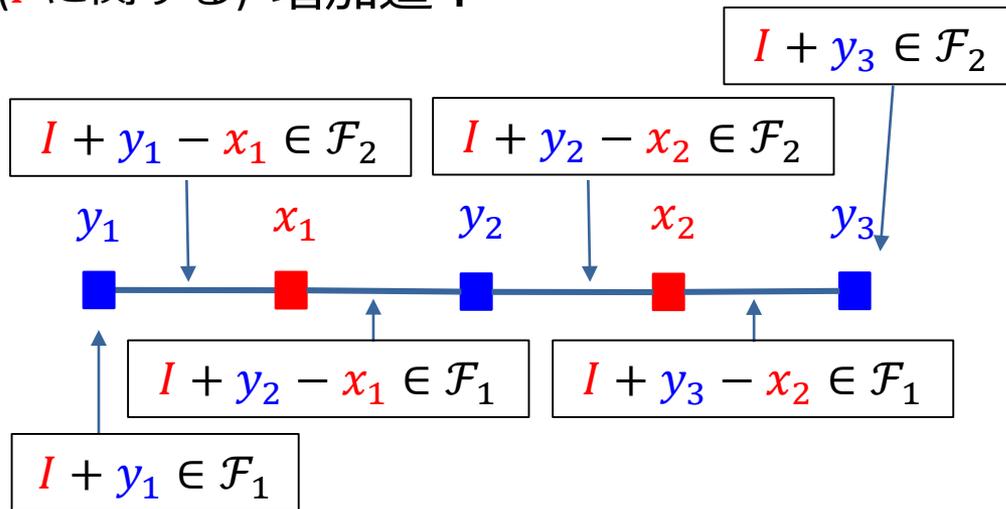
(重み  $w: V \rightarrow \mathbf{R}$ )

# (線形) マトロイド交差アルゴリズム

入力： (線形) マトロイド  $\mathbf{M}_1 = (V, \mathcal{F}_1), \mathbf{M}_2 = (V, \mathcal{F}_2)$

問題： 最大の**共通独立集合**は？

( $I$  に関する) 増加道：



$A_1 =$

1				2	1	1	1	2	5
	1			2	2	1		2	
		1				4	2		
			1			2	2	1	
				1				2	
				4					

$x_1 \ x_2 \ x_3 \ x_4 \ y_1 \ y_2 \ y_3 \ y_4 \ y_5 \ y_6$

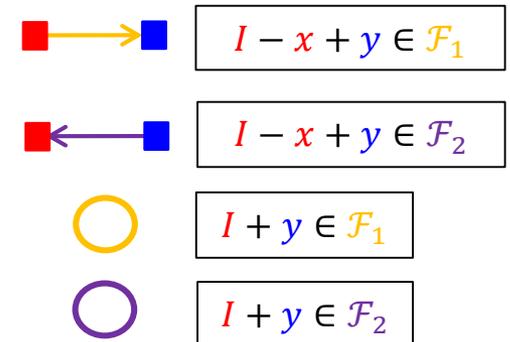
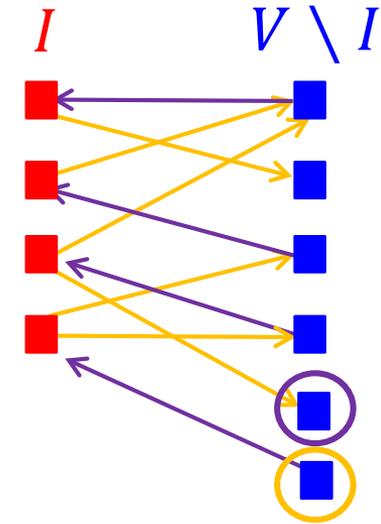
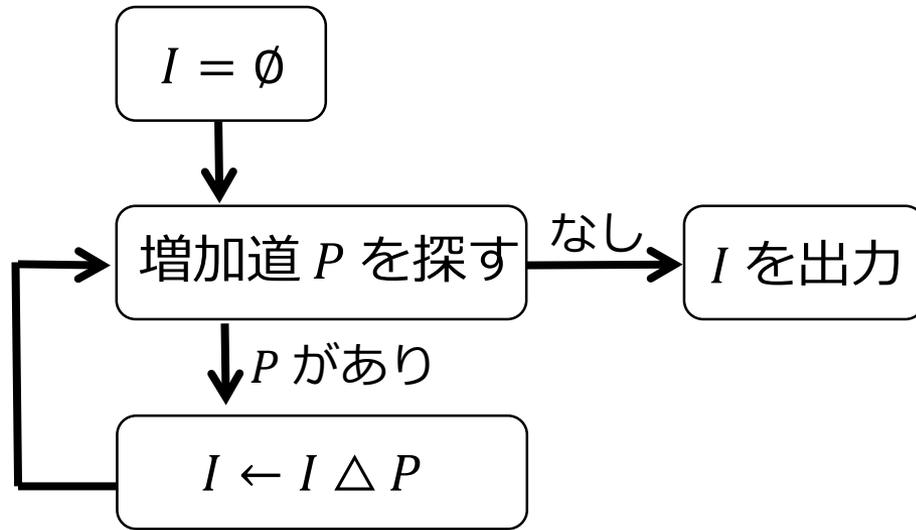
$A_2 =$

1				3	1			2	1
	1			2	2			2	
		1							
			1	2				4	
						2			3
						5			4
							1		

$$I = \{x_1, x_2, x_3, x_4\}$$

- 観察： $I \Delta P$  は  $I$  よりサイズが 1 大きい
- 観察 (?)： $I \Delta P$  は共通独立集合??

# 増加道アルゴリズム ( ? )



- $I \Delta P$  は独立集合？
- 出力は最大独立集合？
- 増加道の探索は簡単？ → 補助グラフ上の探索

○ から ○ への有向パスを探索

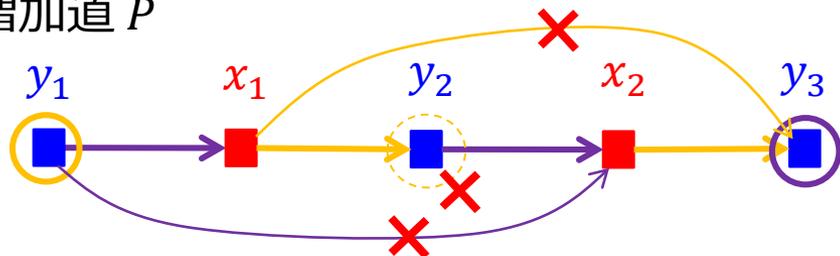
# $I \Delta P$ は独立集合

## 定理

枝数最小の増加道  $P$  に対して,  $I \Delta P$  は独立集合  
(ショートカットを持たない)

## 略証

増加道  $P$



$I - x + y \in \mathcal{F}_1$

$I + y \in \mathcal{F}_1$

$I - x + y \in \mathcal{F}_2$

$I + y \in \mathcal{F}_2$

1				2	1	1	1	2	5
	1			2		1		2	
		1			4	2		1	
			1			2		2	
				1				1	
				4				2	

$x_1 \ x_2 \ x_3 \ x_4 \ y_1 \ y_2 \ y_3 \ y_4 \ y_5 \ y_6$

$A_1 =$

1				1				2	1
	1			2					
		1						2	
			1					4	
						2			3
						5	1		4

$A_2 =$

$x_1$   
 $x_2$

1				2	1	
	1			2		1
		1				4
			1			
				1		
				4		

$A_1$  の一部

の零/非零が確定

$x_1 \ x_2 \ x_3 \ x_4 \ y_1 \ y_2 \ y_3$

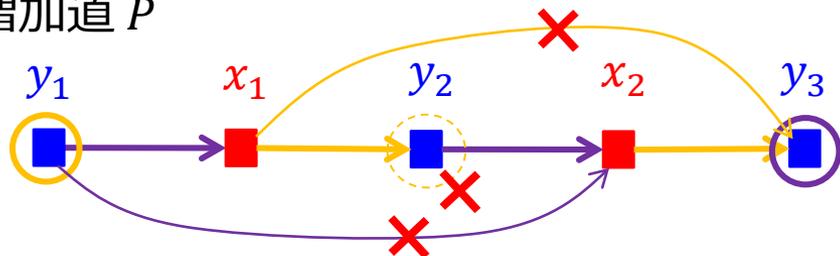
# $I \Delta P$ は独立集合

## 定理

枝数最小の増加道  $P$  に対して,  $I \Delta P$  は独立集合  
(ショートカットを持たない)

## 略証

増加道  $P$



$$A_1 = \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & & & & & & & & & & \\ \hline & 1 & & & & & & & & & \\ \hline & & 1 & & & & & & & & \\ \hline & & & 1 & & & & & & & \\ \hline & & & & 1 & & & & & & \\ \hline & & & & & 2 & & & & & \\ \hline & & & & & 2 & & & & & \\ \hline & & & & & & 1 & & & & \\ \hline & & & & & & 4 & & & & \\ \hline & & & & & & & 2 & & & \\ \hline & & & & & & & 2 & & & \\ \hline & & & & & & & & 1 & & \\ \hline & & & & & & & & & 2 & \\ \hline & & & & & & & & & & 5 \\ \hline \end{array}$$

$x_1 \ x_2 \ x_3 \ x_4 \ y_1 \ y_2 \ y_3 \ y_4 \ y_5 \ y_6$

上三角性が重要!

$x_1$   
 $x_2$

1				2	1	
	1			2		1
		1				4
			1			
				1		
				4		

$x_1 \ x_2 \ x_3 \ x_4 \ y_1 \ y_2 \ y_3$

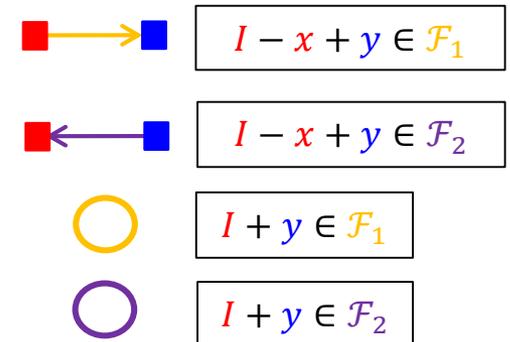
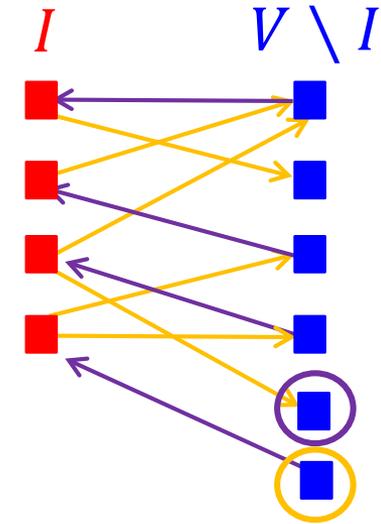
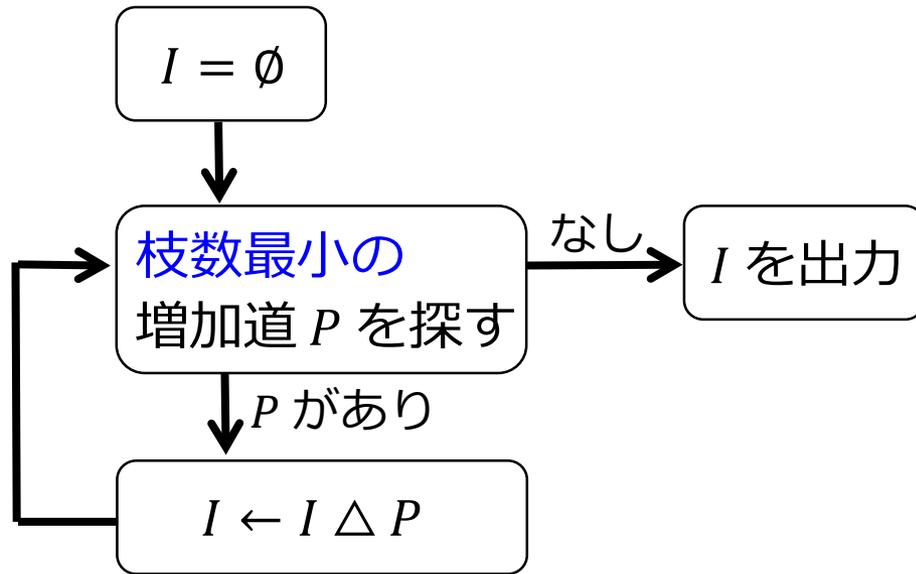
$A_1$  の一部  
□ の零/非零が確定

1				2	1	
	1			2		1
		1				4
			1			
				1		
				4		

$x_1 \ x_2 \ x_3 \ x_4 \ y_1 \ y_2 \ y_3$

は独立

# 増加道アルゴリズム (修正版)



- $I \Delta P$  は独立集合? → OK
- 出力は最大独立集合?
- 増加道の探索は簡単? → 補助グラフ上の探索

○ から ○ への有向パスを探索

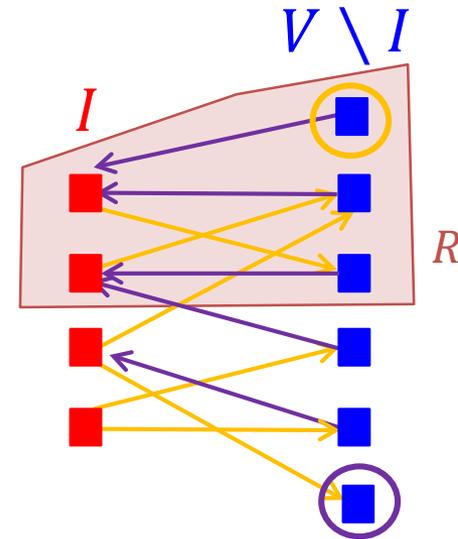
# 出力は最大独立集合

○ から ○ への有向パスがないと仮定

➡ ○ から到達できる点全体を  $R$  とする

$$A_1 = \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & & & & * & * \\ \hline & 1 & & & * & 0 \\ \hline & & 1 & & * & 0 \\ \hline & & & 1 & * & 0 \\ \hline \end{array}$$

$R$

$$A_2 = \begin{array}{|c|c|c|c|c|c|} \hline 1 & & & & 0 & * \\ \hline & 1 & & & * & * \\ \hline & & 1 & & * & * \\ \hline & & & 1 & 0 & * \\ \hline \end{array}$$


■ → ■  $I - x + y \in \mathcal{F}_1$

■ ← ■  $I - x + y \in \mathcal{F}_2$

○  $I + y \in \mathcal{F}_1$

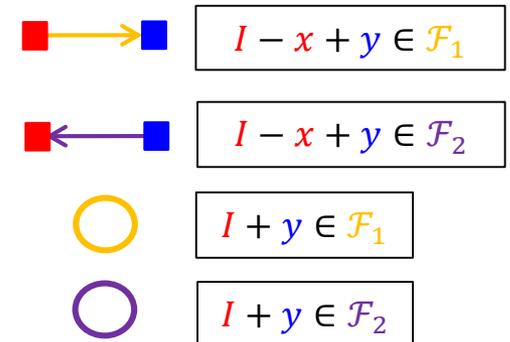
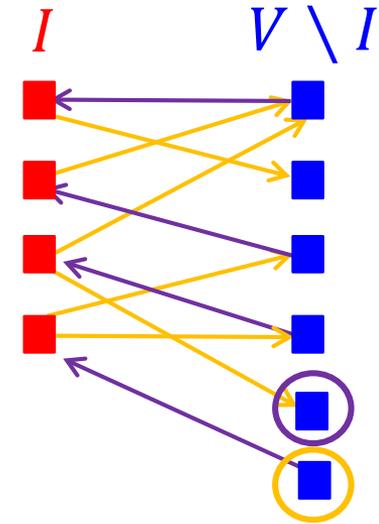
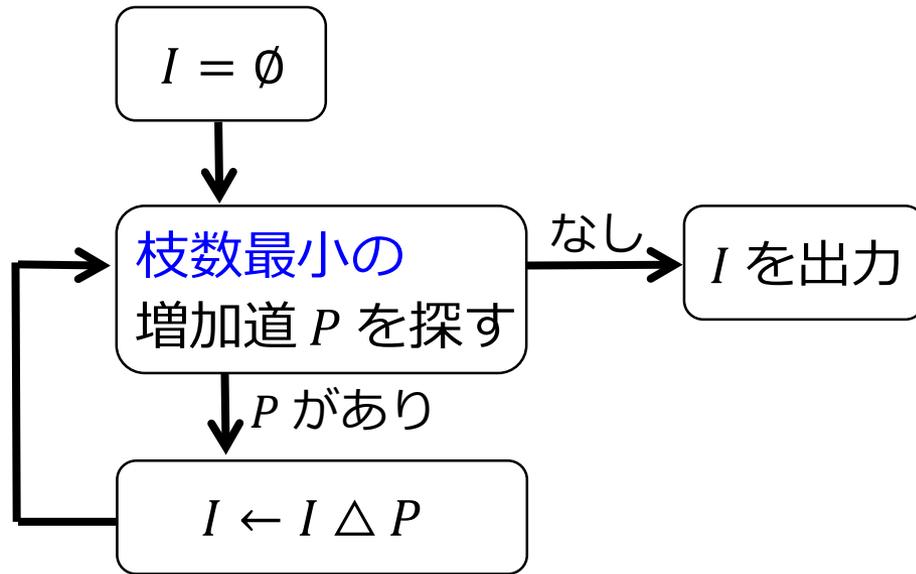
○  $I + y \in \mathcal{F}_2$

**定理**

$$\begin{aligned} & \max\{|J| : J \in \mathcal{F}_1 \cap \mathcal{F}_2\} \\ & = \min_{R \subseteq V} \{r_1(V \setminus R) + r_2(R)\} \end{aligned}$$

➡  $|I| = r_1(V \setminus R) + r_2(R) \geq \max\{|J| : J \in \mathcal{F}_1 \cap \mathcal{F}_2\}$

# 増加道アルゴリズム (修正版)



- $I \Delta P$  は独立集合? → OK
- 出力は最大独立集合? → OK
- 増加道の探索は簡単? → 補助グラフ上の探索

○ から ○ への有向パスを探索

# 重み付き（線形）マトロイド交差

---

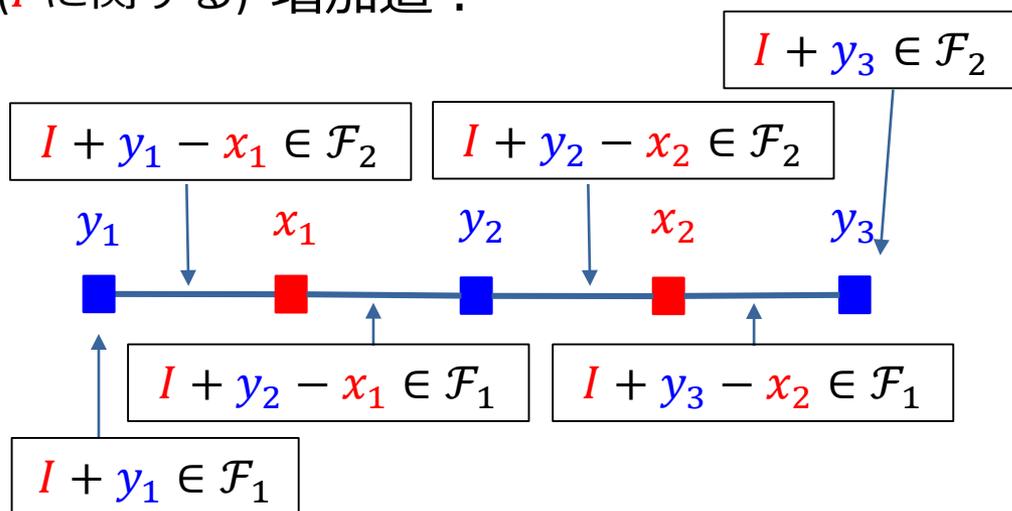
Edmonds (1979), Lawler (1976)  
Iri & Tomizawa (1976), Frank (1981)

# 重み付き (線形) マトロイド交叉

入力： (線形) マトロイド  $\mathbf{M}_1 = (V, \mathcal{F}_1), \mathbf{M}_2 = (V, \mathcal{F}_2)$

問題： 最小重みの共通基は？ (重み  $w: V \rightarrow \mathbf{R}$ )

( $I$  に関する) 増加道：



観察： 重みの増分は  $w(P - I) - w(P \cap I)$

$A_1 =$

1				2	1		1				
	1			2	2			1		2	5
		1				1	4	2			
			1					2		1	
				1						2	
				4							

$x_1 \ x_2 \ x_3 \ x_4 \ y_1 \ y_2 \ y_3 \ y_4 \ y_5 \ y_6$

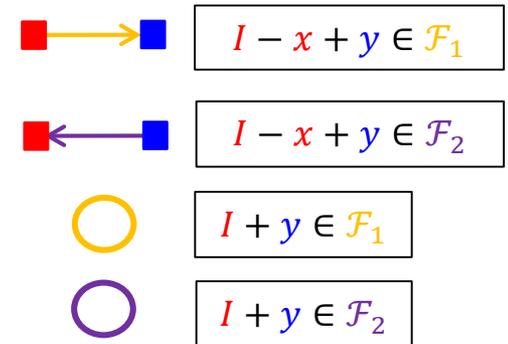
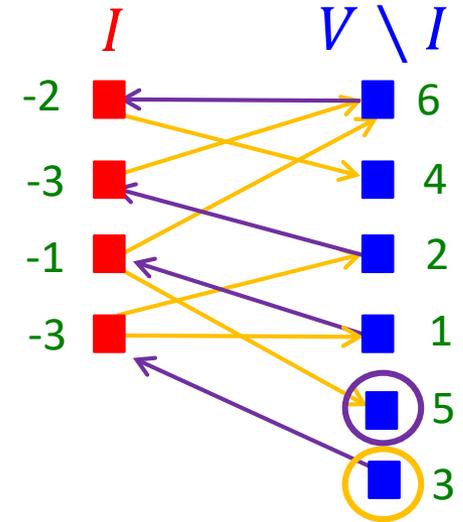
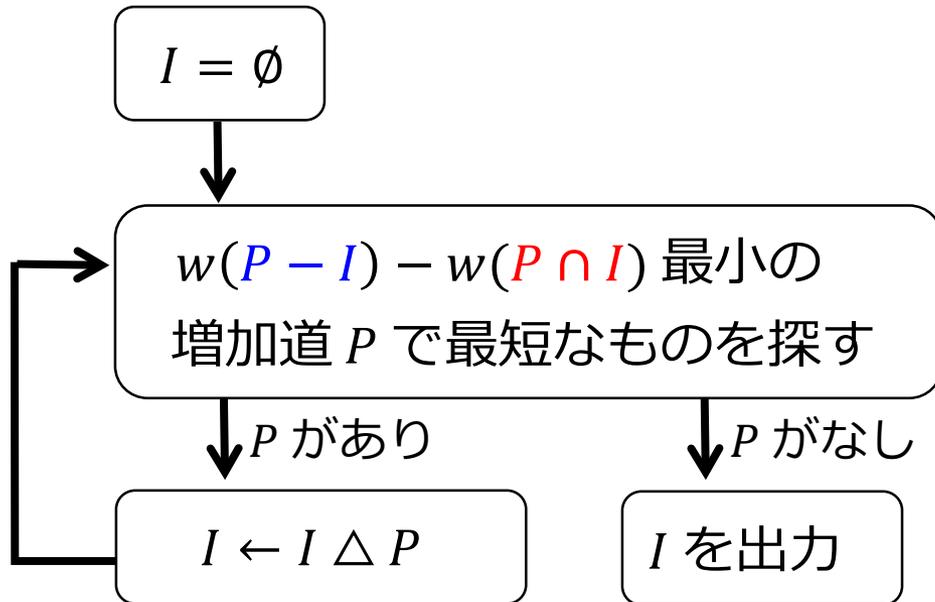
$A_2 =$

1				3	1					1	
	1			2	2					2	
		1		2							
			1					2		4	
								5			3
									1		4

$$I = \{x_1, x_2, x_3, x_4\}$$

# 最小重み共通基に対するアルゴリズム (?)

(共通基を持つと仮定)



- $I \Delta P$  は独立集合?
- 出力は最小重み共通基?
- 増加道の探索は簡単? → (負閉路がなければ) OK

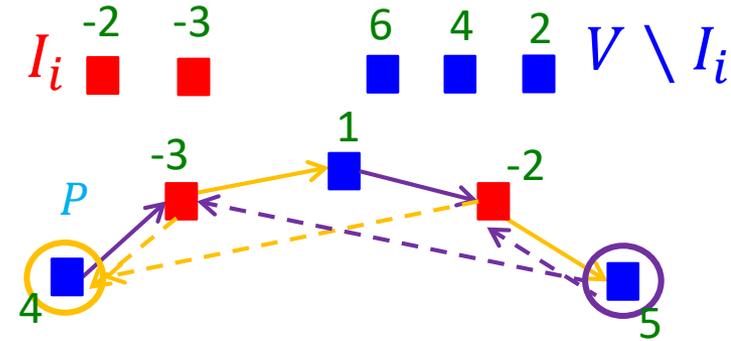
$D(I)$

# 出力の正当性・最適性

$I_i$ :  $i$  回更新して得られたサイズ  $i$  の集合

## 定理

$I_i$  はサイズ  $i$  の最小重み共通独立集合



## 補題 (演習問題)

共通独立集合  $I$  がサイズ  $|I|$  の中で最小重み  $\iff D(I)$  が負閉路を持たない

# 出力の正当性・最適性

$I_i$ :  $i$  回更新して得られたサイズ  $i$  の集合

## 定理

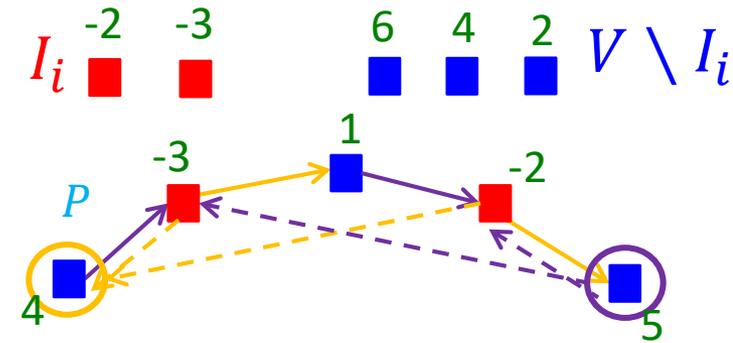
$I_i$  はサイズ  $i$  の最小重み共通独立集合

## 帰納法

( $i = 0$  のときは明らか)

- $I_i$  がサイズ  $i$  の最小重み共通独立集合と仮定
- $P$ :  $l(P)$  最小の増加道

➡  $D(I_i)$  が負閉路を持たない



## 補題 (演習問題)

共通独立集合  $I$  がサイズ  $|I|$  の中で最小重み  $\iff D(I)$  が負閉路を持たない



# 出力の正当性・最適性

$I_i$ :  $i$  回更新して得られたサイズ  $i$  の集合

## 定理

$I_i$  はサイズ  $i$  の最小重み共通独立集合

## 帰納法

( $i = 0$  のときは明らか)

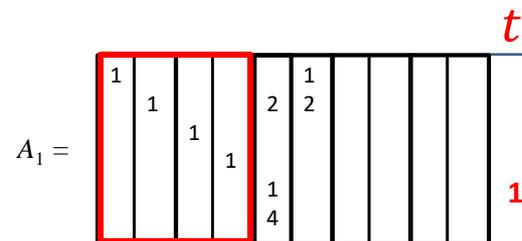
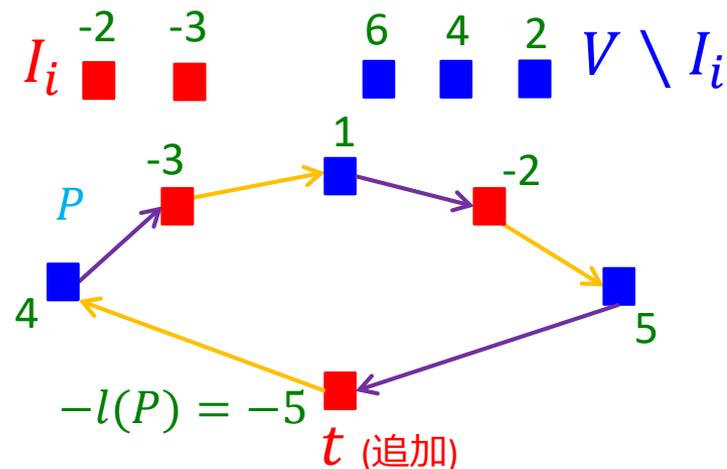
- $I_i$  がサイズ  $i$  の最小重み共通独立集合と仮定
- $P$ :  $l(P)$  最小の増加道

➡  $D(I_i)$  が負閉路を持たない

➡  $D'(I_i + t)$  が負閉路を持たない  
(修正したマトロイドで)

➡  $I_i + t$  がサイズ  $i + 1$  の最小重み共通独立集合  
(修正したマトロイドで)

注 ➡  $I_i \Delta P$  はサイズ  $i + 1$  の最小重み共通独立集合



注:  $I_i \Delta P$  が共通独立集合なら

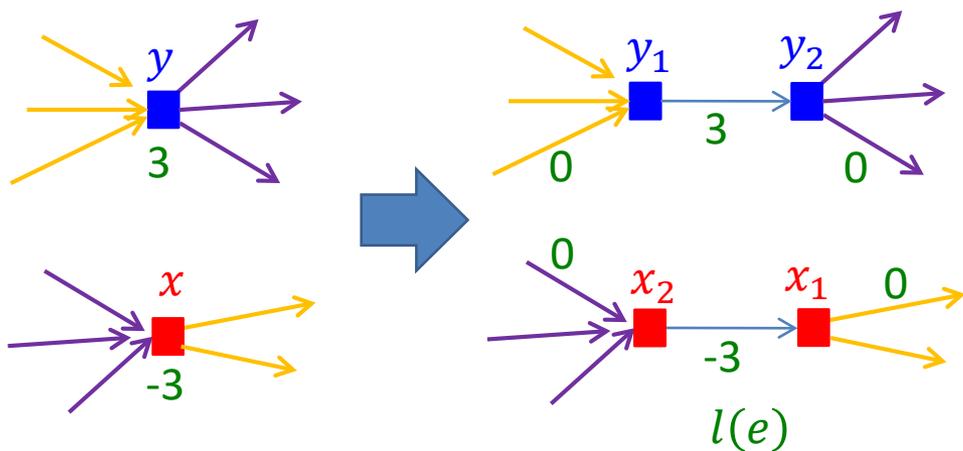
## 補題 (演習問題)

共通独立集合  $I$  がサイズ  $|I|$  の中で最小重み  $\longleftrightarrow D(I)$  が負閉路を持たない

# $I_i \triangle P$ は共通独立集合 (1)

注： $P$ にはショートカットがあるかも

準備：各点を2点に分割 (点の重みは見づらいので)

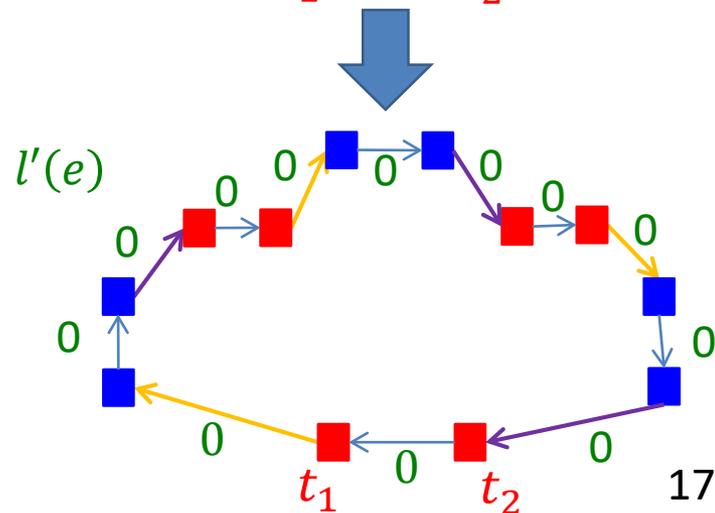
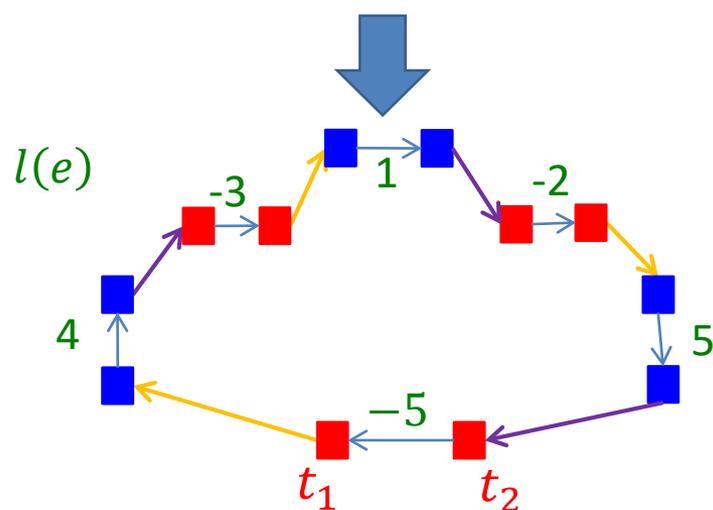
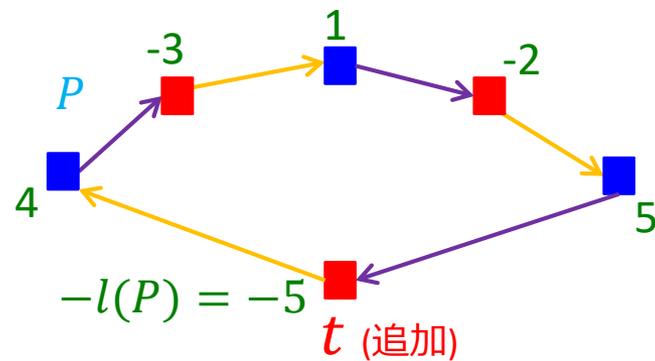


$$\exists p \in \mathbf{R}^V$$

$$l'(e) := l(e) - p(v) + p(u) \quad (e = (u, v): \text{有向枝})$$

非負

観察：ショートカットは  $l'(e) > 0$



# $I_i \triangle P$ は共通独立集合 (2)

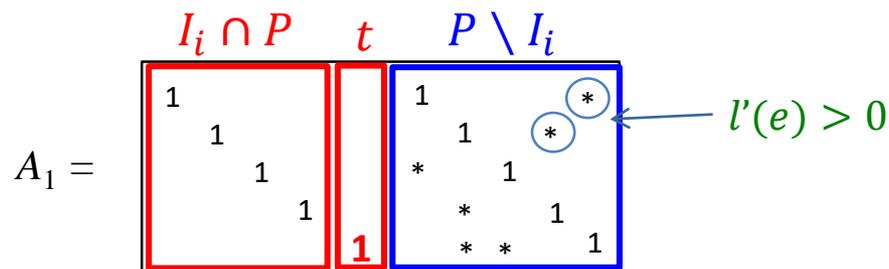
$\exists p \in \mathbf{R}^V$

$$l'(e) := l(e) - p(v) + p(u) \quad (e = (u, v): \text{有向枝})$$

非負

観察：ショートカットは  $l'(e) > 0$

$A_1$  の  $P$  に関する部分のみ



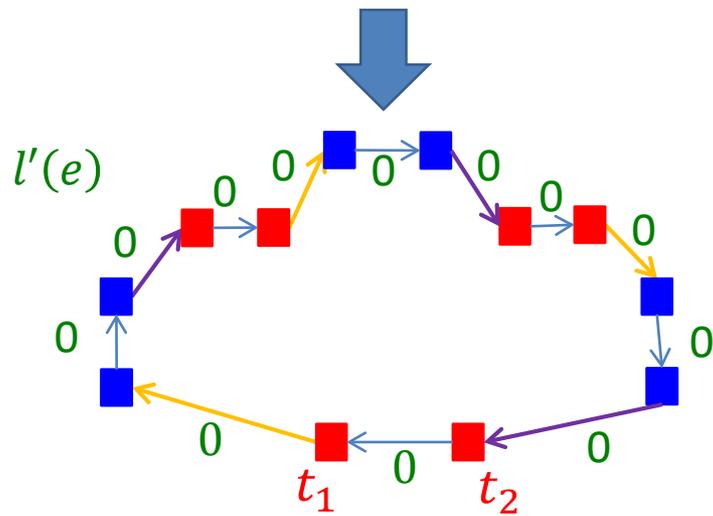
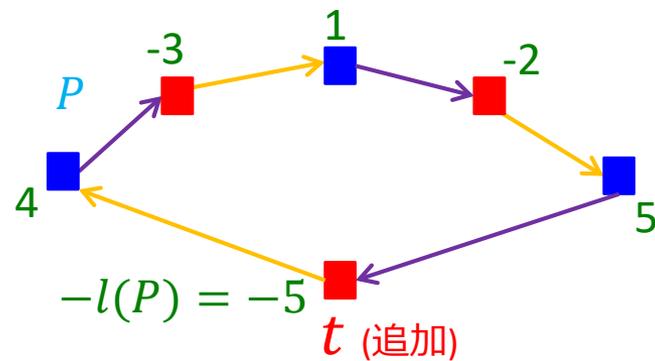
主張：  は正則

略証 正則でないとする、 $\det$  に寄与する項が対角以外に存在

➡ 各成分に対応する  $l'(e)$  は非負、  
少なくとも一つは  $l'(e) > 0$  の成分を含む

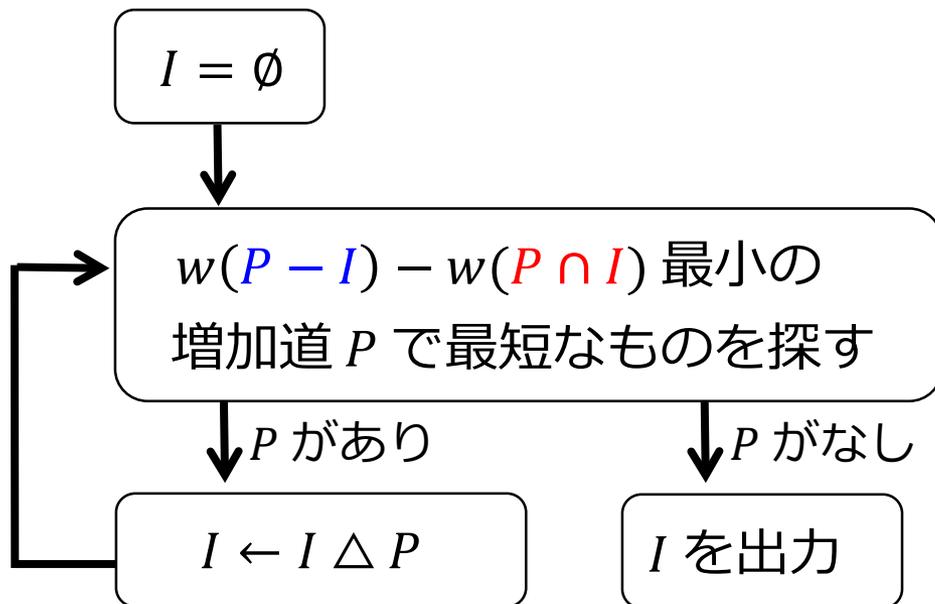
➡ 各成分に対応する  $l'(e)$  の総和は正 ➡ 矛盾

}  $I_i \triangle P$  は独立集合

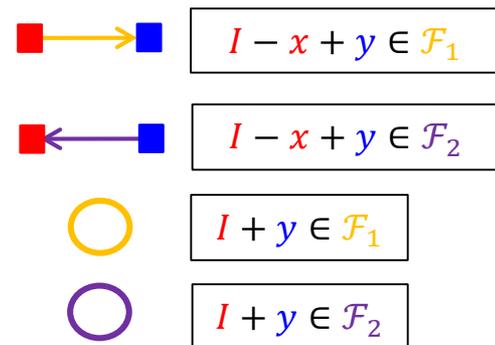
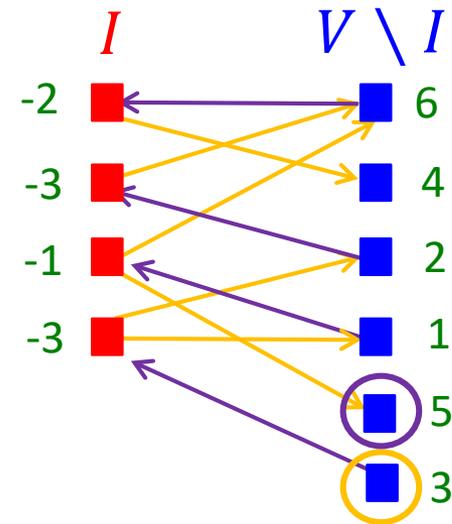


# 最小重み共通基に対するアルゴリズム

(共通基を持つと仮定)



- $I \Delta P$  は独立集合？
- 出力は最小重み共通基？
- 増加道の探索は簡単？ → (負閉路がなければ) OK



$D(I)$

# マトロイド交叉多面体

---

# マトロイド交叉多面体

マトロイド交叉多面体  
 $\text{conv}\{\chi_I \mid I \in \mathcal{F}_1 \cap \mathcal{F}_2\}$

=

$$\begin{aligned} \sum_{v \in U} x(v) &\leq r_1(U) && (U \subseteq V) \\ \sum_{v \in U} x(v) &\leq r_2(U) && (U \subseteq V) \\ x(v) &\geq 0 && (e \in V) \end{aligned}$$

## Remarks

- $\subseteq$  は簡単.  $\supseteq$  が非自明.
- 不等式は指数個ある
- 不等式系は, 完全双対整数性を持つ

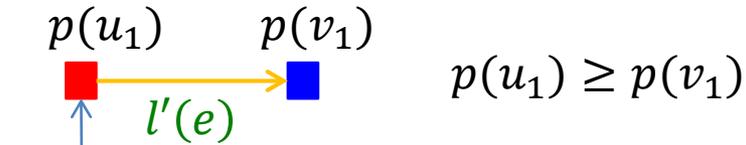
# $p$ の性質 (アルゴリズム終了時)

$$l'(e) := l(e) - p(v) + p(u) \quad (e = (u, v): \text{有向枝})$$

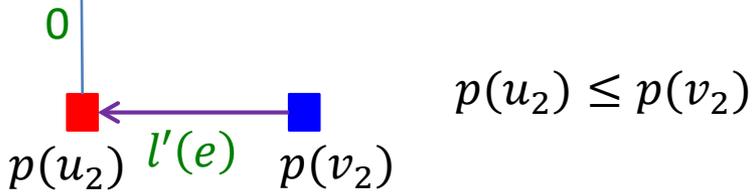
非負



$$I - x + y \in \mathcal{F}_1$$



$$I - x + y \in \mathcal{F}_2$$



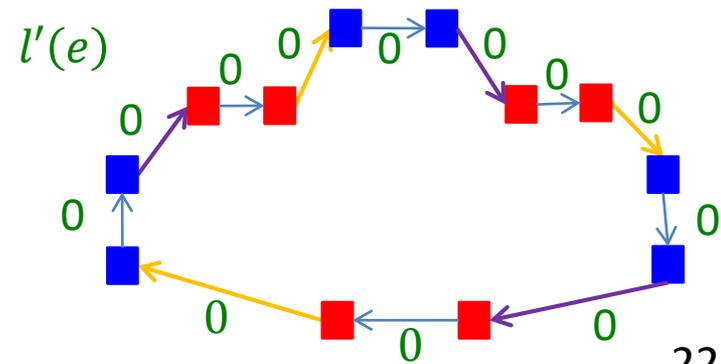
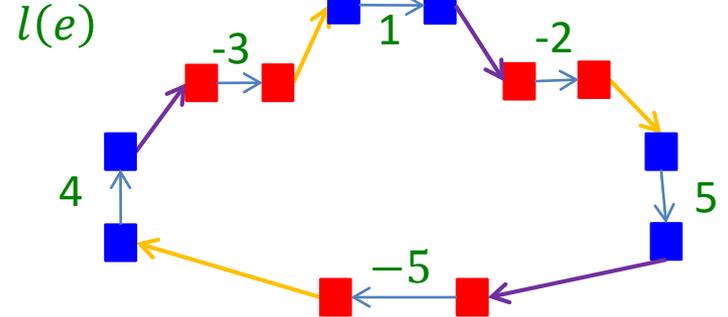
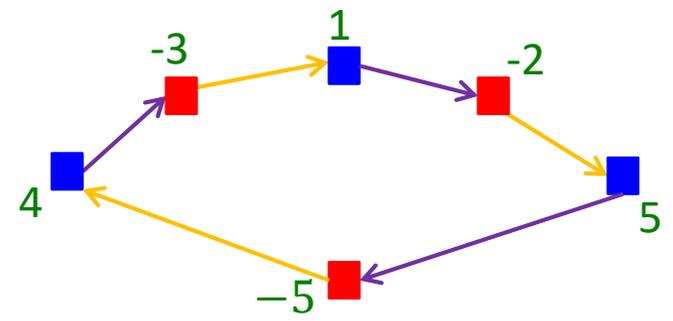
$$p(u_1) - p(u_2) = l(e) = -w(e) \quad I$$

$$p(v_2) - p(v_1) = l(e) = w(e) \quad V \setminus I$$

$$w_1(u) = -p(u_1) \quad w_2(u) = p(u_2)$$

$$w_1(v) = -p(v_1) \quad w_2(v) = p(v_2)$$

とおくと



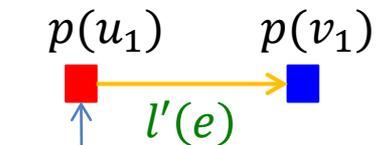
# $p$ の性質 (アルゴリズム終了時)

$$l'(e) := l(e) - p(v) + p(u) \quad (e = (u, v): \text{有向枝})$$

非負

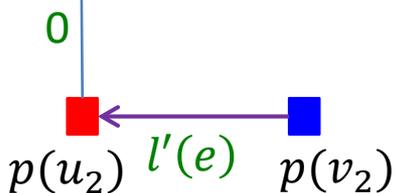


$$I - x + y \in \mathcal{F}_1$$



$$w_1(u) \leq w_1(v)$$

$$I - x + y \in \mathcal{F}_2$$



$$w_2(u) \leq w_2(v)$$

$$w_1(u) + w_2(u) = w(e)$$

$$w_1(v) + w_2(v) = w(e)$$

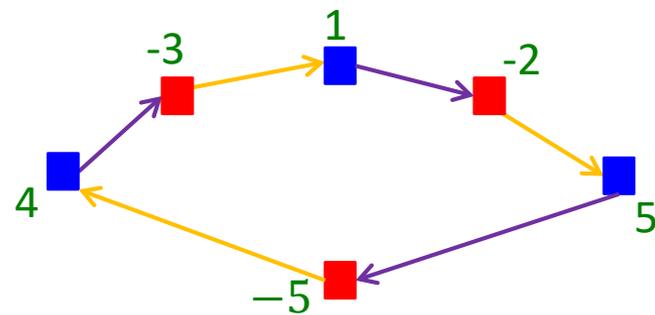
$$w_1(u) = -p(u_1)$$

$$w_2(u) = p(u_2)$$

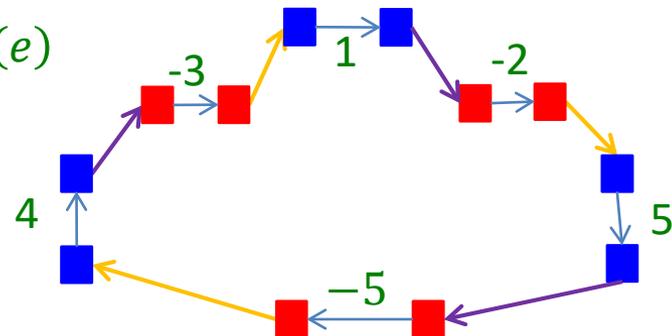
$$w_1(v) = -p(v_1)$$

$$w_2(v) = p(v_2)$$

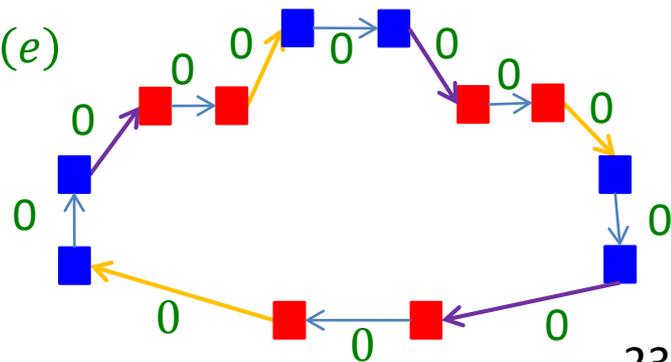
とおくと



$l(e)$

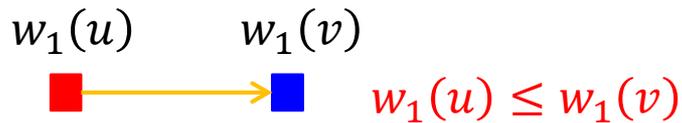


$l'(e)$

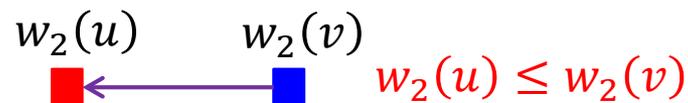


# Weight Splitting Theorem

$$I - x + y \in \mathcal{F}_1$$



$$I - x + y \in \mathcal{F}_2$$



$$w_1(u) + w_2(u) = w(e)$$

$$w_1(v) + w_2(v) = w(e)$$

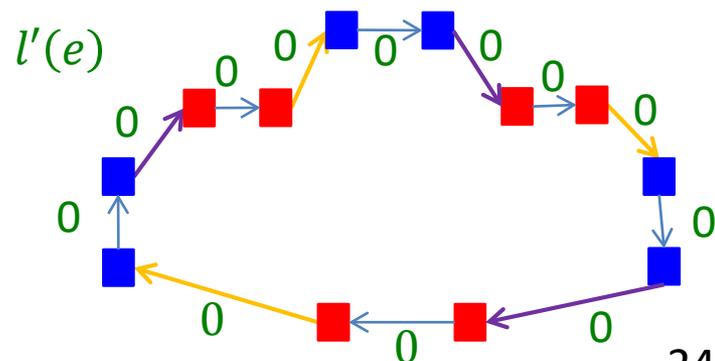
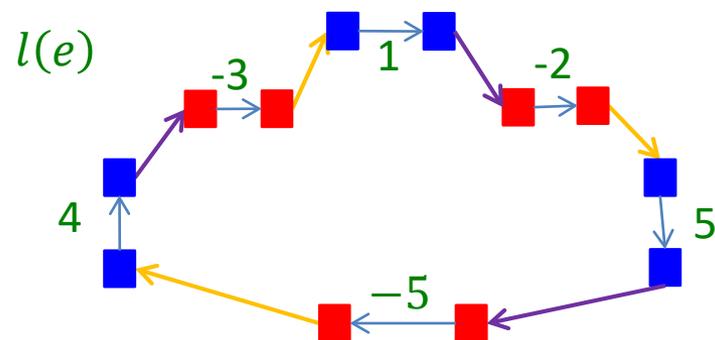
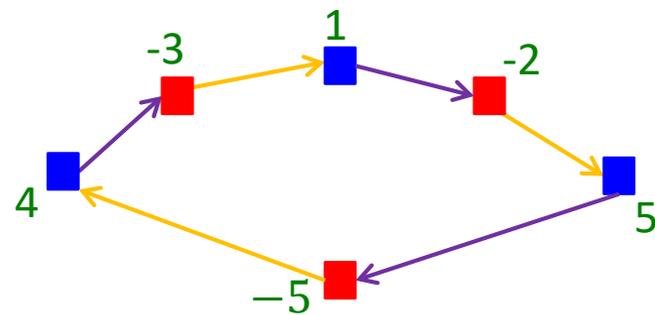
## 定理

$I$  は  $w$  に関する最小重み共通基



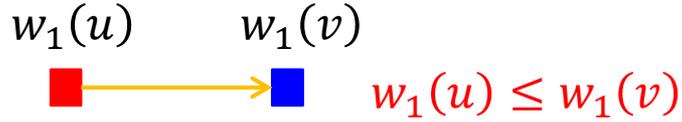
$\exists w_1, w_2 \in \mathbf{R}^V$  with  $w_1 + w_2 = w$  s.t.

- $I$  は  $w_1$  に関する  $\mathbf{M}_1$  の最小重み基
- $I$  は  $w_2$  に関する  $\mathbf{M}_2$  の最小重み基

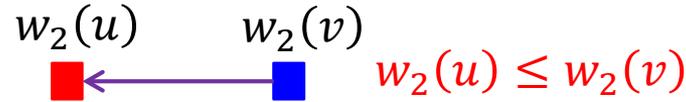


# Weight Splitting Theorem

$$I - x + y \in \mathcal{F}_1$$



$$I - x + y \in \mathcal{F}_2$$



$$w_1(u) + w_2(u) = w(e)$$

$$w_1(v) + w_2(v) = w(e)$$

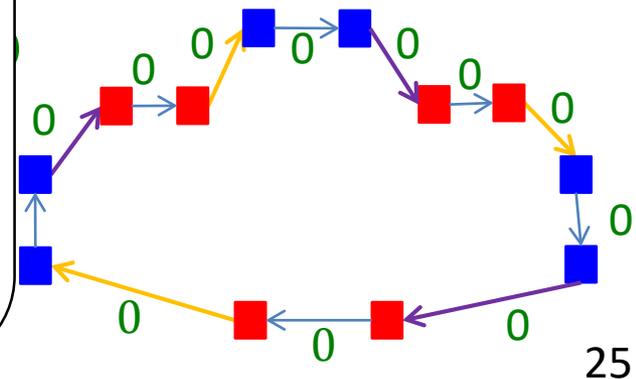
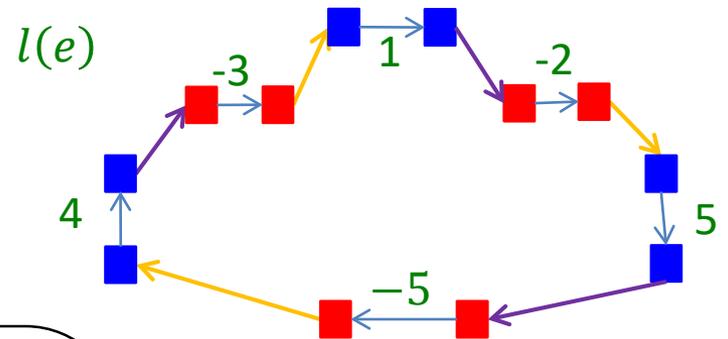
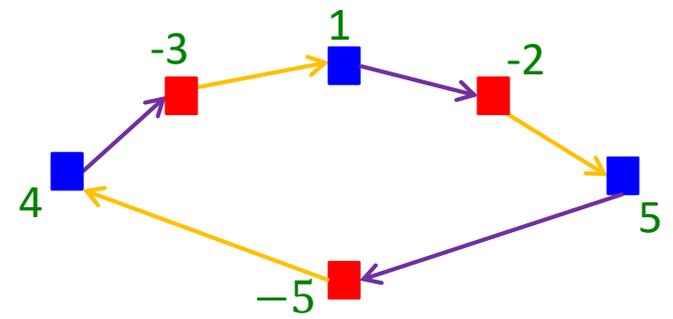
## 定理

$I$  は  $w$  に関する最大重み共通独立集合



$\exists w_1, w_2 \in \mathbf{R}^V$  with  $w_1 + w_2 = w$  s.t.

- $I$  は  $w_1$  に関する  $M_1$  の最大重み独立集合
- $I$  は  $w_2$  に関する  $M_2$  の最大重み独立集合



# マトロイド交叉多面体

マトロイド交叉多面体  
 $\text{conv}\{\chi_I \mid I \in \mathcal{F}_1 \cap \mathcal{F}_2\}$

=

$$\begin{aligned} \text{P} \quad & \sum_{v \in U} x(v) \leq r_1(U) \quad (U \subseteq V) \\ & \sum_{v \in U} x(v) \leq r_2(U) \quad (U \subseteq V) \\ & x(v) \geq 0 \quad (e \in V) \end{aligned}$$

≧ の証明

**P** の各頂点が整数であることを示せばよい。

以下の LP と双対を考える。

**LP**

$$\text{Max.} \quad \sum_{v \in V} w(v)x(v)$$

Sub. to  $x \in \text{P}$

**Dual-LP**

$$\text{Min.} \quad \sum_{U \subseteq V} (r_1(U)y_1(U) + r_2(U)y_2(U))$$

$$\text{Sub. to} \quad \sum_{U: v \in U} (y_1(U) + y_2(U)) \geq w(v) \quad (v \in V)$$

$$y_1, y_2 \geq 0$$

**LP** の最適値  $\geq$  共通独立集合の最大重み

この等号を示したい

$$= \max\{w_1(X): X \in \mathcal{F}_1\} + \max\{w_2(X): X \in \mathcal{F}_2\} \quad (w_1 + w_2 = w)$$

Weight Splitting Theorem

$$= \max\left\{ \sum_{v \in V} w_1(v)x(v) : \sum_{v \in U} x(v) \leq r_1(U) \quad (\forall U \subseteq V), x \geq 0 \right\}$$

独立集合多面体の整数性

$$+ \max\left\{ \sum_{v \in V} w_2(v)x(v) : \sum_{v \in U} x(v) \leq r_2(U) \quad (\forall U \subseteq V), x \geq 0 \right\}$$

双対性

$$= \min\left\{ \sum_{U \subseteq V} r_1(U)y_1(U) : \sum_{U: v \in U} y_1(U) \geq w_1(v) \quad (\forall v \in V), y_1 \geq 0 \right\}$$

$$+ \min\left\{ \sum_{U \subseteq V} r_2(U)y_2(U) : \sum_{U: v \in U} y_2(U) \geq w_2(v) \quad (\forall v \in V), y_2 \geq 0 \right\}$$

$y_1, y_2$  は  
の実行可能解

**Dual-LP**

$$\geq \text{Dual-LP の最適値} = \text{LP の最適値}$$

双対性

**Dual-LP**

Min.  $\sum_{U \subseteq V} (r_1(U)y_1(U) + r_2(U)y_2(U))$

Sub. to  $\sum_{U: v \in U} (y_1(U) + y_2(U)) \geq w(v) \quad (v \in V)$

$y_1, y_2 \geq 0$

# マトロイド交叉のまとめ

- (重み付き) マトロイド交叉は多項式時間で解ける
- 増加道による更新を繰り返せばよい
- 「ショートカットの無い」増加道が重要
  - ➡ 対応する行列の上三角性
- マトロイド交叉多面体の表現が知られている